

科目名	知的障がいと自立活動の基礎 (S)				B
	サブタイトル				
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	川端陽子				
担当教員の 実務経験	知的障害、肢体不自由特別支援学校に39年間の勤務経験あり。通学の学級・訪問教育の経験のほかに、専任の自立活動部の経験が、知的障害・肢体不自由併せて、10数年ある。				
オフィスアワー	非常勤講師のためHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問箱を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	講義 演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B151S				
科目区分	こころとからだの関係				
使用教材	教科書	配布資料の中で、知的障害の自立活動について、キーワードに掲げた項目等について、必要な学習項目を表示する。 発達障害の中核的な特性が、「衝動性」であること、知的障害の児童・生徒の実態を把握するときに、身体、情動、認知の関連をどうとらえるかなどについても、資料に盛り込む。			
	参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 『特別支援教育の基礎・基本2020』、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著、「ジアース教育新社」、2020年、初版 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』、文部科学省、平成30年3月 			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、知的障害の自立活動についての理解を深め、教育現場での実践能力をさらに高めることをねらいとして、心身健康科学の知識と連動した実践的な活動を行う基礎をみにつけることを目的とする。				
キーワード	心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容				
一般目標 (GIO)	<p>個々の児童・生徒の障害の特性について、これまで履修者が行ってきた自立活動のねらい・実践を振り返りながら、解決が出来ていない点、悩み点、困った点などを把握する。さらに、心身健康科学の知識・学びの視点を加えることで改めて問題点を見つめ直し改善点を探り、実践的な理解を深める。このことを踏まえて、教育現場で、これまで以上に、児童・生徒の困り感に目標を定めた実践を展開できる教師としての力量を培う。</p> <p>上記の「教師としての変化・成長」を遂げるために、以下の事を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身健康科学を基礎とした児童・生徒の見方。 知的障害の特別支援教育の場に多くいる「衝動性」について学ぶ（衝動性）。 児童・生徒の実態を的確に捉えて、適切な自立活動の目標を設定できるようになる。 設定した目標に沿って、教材教具等の効果的な使い方を知る。 				
行動目標 到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> 心身相関の観点を持ち、児童・生徒の実態把握が適切にできる。 発達障害の中核なる障がい特性は、「衝動性」であることの説明ができる。 児童・生徒の発達を、身体・情動・認知と関連させて捉えることができる。 児童・生徒の実態に見合った適切な指導方法・内容を知り、実践することができる。 この学習で得た、心身相関の観点からの自立活動の展開を、学校現場の先生方にも伝えることができるようになる。 				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	<p>人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 <ul style="list-style-type: none"> 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 			

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 <p>2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力 								
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。</p>								
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p> <p>2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること</p> <p>4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること</p>								
カリキュラムポリシーとの関連	<p>人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 								
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 								
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>								
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 ディスカッションにおける発言(20%)と講義中の実技等や実施する試験(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。</p>								
スクーリング履修での講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画</p> <p>発達障害の中核となる障がい特性の「衝動性」の制御にせまる自立活動の授業内容を考える（心身共に）。 認知を高めるうえで必要な、個別の学習内容にせまる自立活動の内容を考える。</p> <table border="1" data-bbox="443 1960 1511 2157"> <thead> <tr> <th>時限</th> <th>学習内容</th> <th>キーワード（重要語句）</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1時限</td> <td>イントロダクション</td> <td>【グループ討議（アクティブラーニング）】 知的障害の自立活動の現状について、履修者の現状を振り返りながら、解決が出来る</td> <td>川端</td> </tr> </tbody> </table>	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員	1時限	イントロダクション	【グループ討議（アクティブラーニング）】 知的障害の自立活動の現状について、履修者の現状を振り返りながら、解決が出来る	川端
時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員						
1時限	イントロダクション	【グループ討議（アクティブラーニング）】 知的障害の自立活動の現状について、履修者の現状を振り返りながら、解決が出来る	川端						

			ていない点、悩み点、困った点などを把握する。	
2時限	発達障害の特性の理解 I		知的障がいと自立活動の理解の基本となる、衝動性の制御、脳の活性化について、心身のしくみを学ぶ。 衝動性の制御/脳の活性化	川端
3時限	発達障害の特性の理解 II		引き続き、衝動性の制御、脳の活性化について、心身のしくみを学びながら、発達障害の特性を理解する。 衝動性の制御/脳の活性化	川端
4時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーション I		バランスボール、ストレッチボール等を使用した授業内容の紹介を通じ、止まる、ゆっくりの運動・活動などを促す、身体のコントロールについての意義を考える。 身体のコントロール/運動/バランスボール	川端
5時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーション II		引き続き、身体のコントロールを行う中でのコミュニケーションの役割についても理解を深める。 身体のコントロール/コミュニケーション	川端
6時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーション III		身体のコントロールやその活動の中でのコミュニケーションを通じてえられる、身体に触れる活動における心身のつながりの視点を学ぶ。 身体に触れる活動/心身のつながり	川端
7時限	感情・気持ち・意思の表出、コミュニケーション		感情・気持ち・意思の表出を促すために、マカトンサイン、指文字、iPadを用いた学習等で、音声言語以前のコミュニケーション表出を行う手段の獲得を目指す指導方法とそれらの特徴を学ぶ。 非言語コミュニケーション表出/マカトンサイン	川端
8時限	自立活動の事例検討		【グループ討議（アクティブラーニング）】 今回の授業での学びから現場での実践に結びつけられる事例を考え検討して、模擬実施する。	川端
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	心身相関の観点に立った児童・生徒の実態の捉え方について学修する。特に、発達障害の中核となる障がいは「衝動性」であることを知る。授業の展開の仕方としては、アクティビティを活用して、各学校の、「知的障害の自立活動」がどのように取り組まれているか、そこでの課題は何かを忌憚なく出し合い、現状の学校現場の課題を出し合い、何が課題なのかを明確にする。 障害そのものの捉え方、自立活動の目標の立て方がおのずと変わるような学修を行っていく。実技も交え、現場で使えるようにしたい。			
連絡事項	実技も含まれるため、動きやすい服装でご参加ください。実技も交えながら、積極的に実践を体験していただきたい。			